

## 第12回 福岡県地域エネルギー政策研究会 日下座長 総括コメント

- 本日、第12回福岡県地域エネルギー政策研究会を開催し、「新たなエネルギー・電力需給システム（スマートコミュニティ）の構築に向けた地方の役割や取組み」について議論を行いました。
- 今回の研究会では、まずNEDOの諸住哲総括研究員から「スマートコミュニティの普及に向けた取組みと課題」と題し、スマートコミュニティの歴史や、NEDOにおけるこれまでの取組み状況、普及に向けた課題などを、国内外の事例も交えながら、具体的かつ詳細に御教示いただきました。
- 次に、中本成美委員代理（北九州市）から、「北九州スマートコミュニティ創造事業の進捗状況」と題し、電気料金を一時的に変動させて節電・ピークカットを行うダイナミックプライシングや、電気料金以外の動機付けにより節電・ピークカットを促すインセンティブプログラムなど、北九州スマートコミュニティ創造事業における最新の実証成果に加え、今後の課題について情報提供をいただきました。
- 次に、NTT東日本の會田洋久担当部長から、経済産業省事業として本年度から開始された「大規模HEMS情報基盤整備事業」の事業概要や、HEMS（ホーム・エネルギー・マネジメント・システム）のメリット、電力利用データを利活用した新たなサービスの可能性などを御教示いただきました。
- 最後に、これらの講演・情報提供を基に、①地域として、スマートコミュニティにどのような役割を期待すべきか、②エンドユーザーとなる住民や地域にとって、スマートコミュニティの構築にどのようなメリットがあるのか、③スマートコミュニティの構築にあたって、どのような事業者（自治体等を含む）の参画が必要となるのかなどについて、委員間で討議を行いました。  
各委員からの積極的な意見・助言により、「新たなエネルギー・電力需給システム（スマートコミュニティ）の構築に向けた地方の役割や取組み」が明確になりましたので、今後の報告・提言に反映させていきたいと考えております。
- 次回の研究会は11月頃に開催し、「高効率火力発電の普及に向けた地方の役割や取組み」について議論を行うこととしております。  
研究会においては、国の動向等も踏まえながら更に研究を進め、福岡県の将来を大胆に見据えた意見・提言等を行ってまいりたいと考えております。